

令和2年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署長賞

「手助けになる納税」

柏市立柏第二中学校 三年 小森谷 琴歌

私の祖父は去年、脳梗塞で倒れて入院していた。定期的にお見舞いに通っていて驚いたことが、はじめの頃は呂律もあまりまわらず、ベッドから起き上がることもなかった祖父が、数週間のうちにみるみる回復したことだ。

私は不思議に思い、母に病院で何が行われているのか聞いてみた。すると母は、一日四回リハビリをしてもらえること、トイレやお風呂をお手伝いしてもらえることや、食事は体調をふまえて調節して作られていることなどを教えてくれた。私は、そこまで手厚くサポートをしてもらえたから、祖父がここまで回復できたのだと納得した。それから母は、病院で渡された請求書を見せてくれた。そこには、薬代や診察費、病室代の他に、パジャマレンタル一回三百円などと書かれていて、他にも食事代やオムツ代、リハビリ指導料など、項目ごとに行われた回数と料金が細かく書かれていた。サポートが充実しているのはとても嬉しいことだが、それが毎日重なるとかなり高額になってしまうだろう。心配になって母に聞いてみると、

「健康保険があるから、少しの負担で大丈夫なんだよ。」

と教えてくれた。しかし私は、健康保険と聞いても、具体的に何のことなのかよくわからなかった。

そこで調べてみると、健康保険とは社会保障の一部で、社会保障には、年金、医療、介護、子育てなどの分野があり、それぞれ保障を受けることができる制度もある。そして、税金のうち一番多く使われているのがこの社会保障費だ。もし税金が無くて私たちが払っている保険料だけだったら、祖父の負担はもっと大きくなってしまったかもしれない。税金があったからこそ、安心してサービスを受けることができたのだ。

また、私の母は何ヶ月か祖父の介護で仕事を休まなければならなかった。そのときに介護休業手当がでてしていると聞いて、とても良い制度だけれど、それは全て会社から払われているのだと思っていた。しかし社会保障には介護の分野もあるので、介護の面でも、税金に支えられているということに気づいた。少子高齢化社会で、少ない人数の若者で高齢者を支えなければならぬこの時代に、税金からも補助が出ているのは、とても心強いことだと思う。

今まで、私にとっての税金は、国が決めて納めなければならぬものというイメージだった。しかし、いつも何気なく払っていた税金は、私の祖父のように困っている人を助けることにつながっている。また、自分も将来助けられることになるかもしれない。私は、このように納税というかたちでみんなが助け合うことでいつもの生活が成り立っているということに気付かされて、とても感動した。

大人になったら、誰かの手助けをするつもりで納税をして社会に貢献したい。